



# 自然の解説者

自然の解説者  
夏季号 [ 第 36 号 ] 2012 年 7 月 2 日

NPO 法人

ぐんま緑のインタープリター協会紙

事務局: 〒375-0011 藤岡市岡之郷 1179-3

櫻井昭寛 方

電話・Fax 0274-42-2726

<http://inpuri.web.fc2.com/>

編集: 総務企画部会

## 創立 10 周年を振り返って

NPO 法人ぐんま緑のインタープリター協会

顧問 大松 稔

NPO 法人ぐんま緑のインタープリター協会は平成 15 年 3 月に設立して以来、平成 18 年 7 月の NPO 法人化を経て、通算 10 年目を迎えました。設立時に事務局長の立場にあり以降協会と深く関わってきた自分にとって、現在の心境は子供が立派に成長し社会に羽ばたくのを喜ぶ親の気持ちで感慨深いものがあります。

今日を迎えた当協会はまさに一步一步山を登るように地道に着実に進んできたように実感しています。当初は県から緑の指導者とりわけ緑の少年団のサポーターとして期待が大きかったものの、一部の経験者を除いて 10 数回の講義を受けただけでは不安もあり即戦力とはいかない状況で、最初の数年間は協会の資質の向上と協会の交流を重点に体制づくりの準備期間でした。森林や自然に興味を持ちその知識を社会のために生かしたいという共通の目的のもとに集まった人々のこと協調性・積極性があり、役員が月に 2 回以上は集まり協会の運営について積極的に議論して、事務が特定の人に集中しないように部会制による役割分担や協会紙の発行など現在につながる基盤ができました。森林整備の研修などは拠点もないままフィールド探しが課題でしたが、平成 17 年 7 月には関東森林管理局から「あかぎ親しみの森」森林整備団体として 2・7 畝の森林を借り受けることができ、森林整備技術研修を始め調査・研究、自然観察の拠点として利用が始まりました。また、県補助事業「森の体験事業」を開始するなど 5 つの部会（研修、緑の少年団、広報、受託・協力、緑のインプリの森）の事業も安定化してきたことから、発足 4 年目の平成 18 年 7 月 4 日社会の信用と信頼を受けて更なる発展を期すため特定非営利活動法人（NPO）として新たに発足しました。

設立当初 81 名の会員も高齢化や各種事情で退会者が出始めたので、今後の安定的な団体活動を継続していく上で、当協会の目的を共有する人材の養成が必要になり、平成 19 年度から当協会独自事業として県の「群馬県緑のインタープリター養成大学」に準じた「自然の解説者養成講座」を開始しました。平成 23 年度末 121 人が養成講座を修了しその大部分が協会に加入、現在協会員は 141 名、これからの事業運営を考えると心強い限りです。その後も、事業が着実に拡大しているし、17 年からの「緑のインプリの森」での森林整備技術も向上したことから、昨年度からサンデンフォレスト「室沢交流の森」での本格的森林整備を開始、今年度からは前橋市の小坂子地内での里山整備も併せて行っています。待望久しかったホームページも昨年 11 月に開設し積極的な PR 活動を開始しました。



新しいインプリの森作業小屋の看板取付け

当協会の特徴は、会員が基本的に県あるいは協会の養成講座修了者であること、事業がハード、ソフト両面からの多面的活動団体といえます。

現在のボランティア団体の活動上の共通の課題は「運営資金確保」、「人材確保」、「事業・フィールドの確保」ですが、幸いにも当団体では現在、とりわけ問題もなく安定的な運営を続けられる状況にあります。これも設立時の登坂会長から内山、亀井理事長の三人の代表の下に役員・協会員が結束して築いてきた努力の結果であり、併せて県を始めとした公共機関のご指導と経済支援をいただく企業、各種講師の皆様、その他大勢の方々の協力の賜物でこの機会に厚く感謝の意を表します。人と自然の共生・循環型社会構築に寄与するという設立目的に向かって末長い活動を願って止みません。

### <協会活動のピックアップ>

### みどりの子の森整備

今年度は主になる活動の場として NPO 法人「群馬みどりの子ども教室」より委託された小坂子地区にある里山の整備を行います。手が入らず荒れた私有地を借り受け、整備をして子どもたちが自然を体験し学習できる場にしていきます。荒廃の進んだ里山を整備する事は自然環境の保全にも必要であり、継続して整備していく事が大切です。（吉本）



**西上州の地質と日本ジオパーク** 会員資質向上研修1 4月15日(日) 総務企画部会  
前橋市総合福祉会館において、協会創立10周年の記念研修として、下仁田自然史館の関谷友彦氏を迎えて講演会を行いました。協会員38名が参加しました。下仁田町を中心とした西上州の特異な地形と地質の解説や、下仁田ジオパークが地質遺産をベースとした歴史、文化、観光を含んだ地域おこしであることなど、分かりやすい解説で好評でした。(櫻井)



**自然の解説者養成講座開講式と第1回講座** 4月22日(日) 総務企画部会、普及部会  
自然の養成講座の開講式が4月22日(日)に前橋市総合福祉会館で行われました。今年を受講申し込み者は12名で、出席者は補講者を加えて10名でした。来賓として県環境森林部推進課松原利泰次長より祝辞を頂きました。その後、第一回講座の自然の解説者とはなにか、その役割などについて小崎昭一講師による講義やネイチャーゲームが行われました。出席者は受講生11名、スタッフ等10名、合計21名でした。(住谷)



**室沢交流の森整備** 4月28日(土) 6月23日(土) インプリの森部会

4月28日18名、6月23日13名が参加してササ刈りを行いました。昨年のササ刈りの成果でササの勢いがだいぶ弱ってきていますので、全面的刈払いができました。室沢交流の森はインプリの森と名付けて頂きましたので、緑のインプリの森で撤去した看板をこの森の入り口に設置しました。(吉本)



**敷島公園まつり** 4月29日(日) 受託協力部会

今年度から敷島公園の指定管理者が「敷島パークマネジメントJV」に変わり、集客を図るべく、17の共催団体に(株)まえばしCITYエフエムを加え、チラシの枚数を増やし、会議を5回開くなど綿密な計画を立て、当日を迎えました。好天にも恵まれ、例年になく来場者が集まり、ネイチャークラフトの在庫が底をつくほどで、緑の募金は過去最高の27,780円に達しました。協会員16名が参加しました。(吉田幸)



**花と緑のぐんまづくり2012in前橋** 5月5日(土) 受託協力部会

4月14日から5月13日まで前橋公園緑の散策エリアで行われた上記のフェスティバルにネイチャークラフトで参加しました。今年の連休は天候に恵まれませんでした。5月5日は快晴で、多くの子供たちが来場し、終了時間の4時が過ぎても列が途切れず結局終了したのは5時過ぎでした。協会員9名が参加し、緑の募金が13,860円集まりました。(吉田幸)



**緑のインプリの森整備** 5月12日(土) インプリの森部会

5月12日の最後の緑のインプリの森整備には、18名が参加し、遊歩道の整備と森の中の休憩場所の撤去、看板の撤去を行いました。研修等でお世話になった森とも名残惜しい別れとなりました。(吉本)

**覚満淵のササ刈り作戦** 5月20日(日) 自然環境保護活動推進協議会主催 インプリの森部会

協会員20名が参加(全体では95名参加)し、覚満淵北側の草地のササ刈りを行いました。刈り払い機で刈り取ったササを集め一箇所に積み上げました。ササの刈り取られた草地にはニッコウキスゲの芽が10cmほど出ていました。(宇多川)



**みどりの子の森整備** 5月26日(土) インプリの森部会

協会員16名が参加して最初の里山整備を行いました。不法投棄の大型ゴミがあり片付けが大変でしたが、参加人数が多かったので、1区画のササ刈りを完了することができました。

皆さんもぜひ里山整備に参加ください。(吉本)

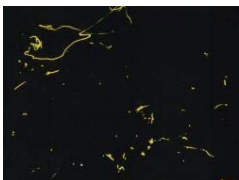
**玉原自然観察会** 会員資質向上研修2 6月16日(土) 総務企画部会

きれいな水と空気をイメージさせるブナ林、ブナは玉原高原の優占樹です。雨の中、協会員24名が参加して玉原高原で亀井理事長の解説で行われました。探鳥路からブナ平、水源ルートを通して湿原に至るコースで、注目すべきはブナ林内のギャップや多雪地帯の植生です。なお、玉原の四季を見守り続けている「利根沼田自然を愛する会」の濱田氏に同行して頂きました。(大谷)



**ホタルの生態と観察研修** 会員資質向上研修3 6月21日(木) 総務企画部会

サンデンフォレストの森の教室とビオトープを使わせて頂き、講師に数多く(県内29カ所)のホタルの生息環境の工事をされている井上植木代表の井上憲明氏を迎えて、ホタルの生態の学習と観察を行いました。平日にもかかわらず協会員28名、ほか14名の42名が参加しました。ホタルの飼育など経験を踏まえたホタルの興味深い話の後、サンデン工場内の西ビオトープに移動してホタルを観察しました。天候は曇りで風がなく、温かかったのでホタル観察には最適でした。参加者は口々に感嘆の声を上げていました。ホタルも気持ちがいいようで、杉の木の上まで高く飛んで分散していますので正確な数は分かりませんが、300匹程度はいると思われました。(櫻井)  
(ホタルの光跡の写真は田村さん提供)



## 緑の窓



## 癒しの森(小鳥の集う里)

第1期生 六本木 太

地球の主役は森林である。人間は森の寄生者であるという・・・。  
新聞の投書欄で読ませて頂きました。

卒寿を間近に向かえるに当たり、どんなドラマも最後の幕が一番実があり、感動的なものと言われておりますからどんな生き様をしようかと考えました。

日本列島で栽培されている果樹全部、赤城山に自生している小鳥の好きな実のなる木、健康を守る薬酒の元の植物を集める事、家の前の25aの畑を利用してこの夢に向かって進むことになりました。

リンゴ、ミカン、カキ・・・等 40種類、赤城山中で最も小鳥の好きな実と言われているナツハゼやウメドモキ、ガズミ・・・等 15種類、健康になる薬酒の元のサルナシ、マタタビ・・・等 6種類。三カ年の



六本木自然園

歳月で集め、植えること

が出来ました。これらの植物は人間同様、豊かな個性の持ち主であります。春の若葉、ウメの白い花、アンズの実の真っ赤な花、小鳥の好きな木の実の楕円形や丸形で赤色が大部分です。サルナシ、マタタビのツルの伸びる生育の早さ、東屋の中で眺める光景、各植物の個性的な生態に心癒されます。

年と共に仲間が少なくなっていく中で、木の実を求めて集まってくる多くの小鳥たちと共に日々を送りたいと思っております。ユスラウメの好きなヒヨドリ、サクランボの好きなイカル、リンゴの好きなツグミ、果樹園の好きなカッコウ、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ・・・達がたくさん集まり看板に偽りのないような癒しの森となり、小鳥の集う里になる事を、家の裏山に作った「六本木自然園」の充実と共に楽しみにして頑張っております。



癒しの森の入り口にて



豆知識

## タンポポの花

第6期生 関端 孝雄

## 1 花の変化

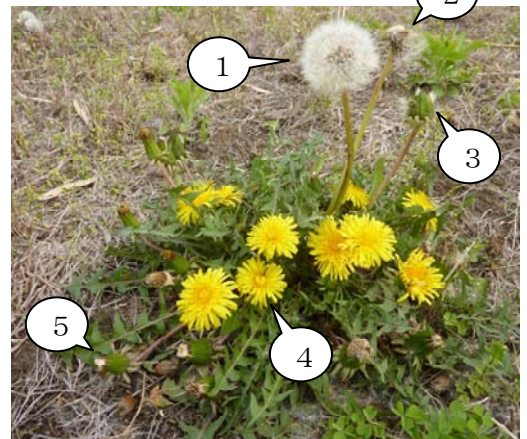
右の写真は、近くの遊園地で見つけたセイヨウタンポポの1株です。花には開花から実が出来るまでいろいろな状態があります。5つの番号を付けましたが、どんな順序に変化しているのでしょうか、推測してみてください。

御覧の通り、タンポポは1つの株から順次沢山の花を咲かせます。まず蕾は短い花茎(約3cm)の先端に1個着けます。花は朝開いて夕方閉じます(光傾性の成長運動)。その状態が4番です。普通3日間続けて開閉し、4日目に花を閉じます。その後花茎を少し伸ばし、花を横に寝かせます。それが5番です。何故こんな格好をするのでしょうか? 1つには、これから開花する他の花に席を譲ること。もう1つは、お休みをしている間に種子を実らせるのです。そして、約2週間後、種子が成熟した花茎は伸ばしながら再び立ち上がります。それが3番。更に花茎を長く伸ばして、綿帽子(冠毛)をかぶったような姿になります。それが1番の状態、花茎が最長になります。子孫繁栄のため、(風媒花は)少しでも強い風に当たり、遠くまで散布してもらえよう約30cmのノッポになります。そして、綿帽子を全部飛ばした最後の姿が2番です。

## 2 花のつくり (キク科タンポポ属)

タンポポの花は、実は花茎の先端に沢山の小さな花(小花)が集合したもので、周囲を総苞が包んでいます。それは1個の花のように見えます。このような花の着き方を「頭状花序」と言い、全体の花を「頭花」と呼びます。小花には舌状花と筒状花がありますが、タンポポは舌状花のみで、その数100~300個を擁する頭花です。

舌状花は、5枚が合着した1つの花弁と1本の雌蕊、その先(柱頭)は2つに割れており、5本の雄蕊は花粉を入れている袋(葯)が互いに合生し雌蕊の柄(花柱)を包んでいます。子房下位。冠毛(萼片に相当)をつけた落下傘のような種子は、実は果実(瘦果)であって、「イチゴの実にあるゴマ?」と同様に薄い果皮が種子を包んでいるものです。



### <昆虫の話> 第2回 分類上における昆虫とその仲間

第7期生 須藤 友治

地球上の生物は大きく植物と動物に分かれます。このうち動物は背骨のある脊椎動物と背骨のない無脊椎動物に分けられます。そして、昆虫(類)は無脊椎動物の中の節足動物グループ(門)に含まれます。この門は動物グループ(界)最大の分類群で、昆虫類の他に甲殻類、多足類、クモ形類が属し、陸・海・空・土中などあらゆる場所に進出しています。その種数は約110万種と名前を持つ全動物種の85%以上を占めています。

共通する特徴は「節足」の名前の通り、「節」のある「脚」を持つこと、体の表面がクチクラ(キチン質やタンパク質等)でできた硬い殻(外骨格)でおおわれていることなどです。なお、昆虫類以外の代表的な動物種は次の通りです。

甲殻類: カニ、エビ、ダンゴムシ、ミジンコ……等

クモ形類: クモ、ザトウムシ、ダニ、サソリ……等

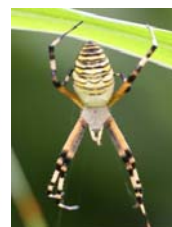
多足類: ヤスデ、ムカデ、ゲジ、エダヒゲムシ……等

(注1) 普通、「足」の字は我々人のような脊椎動物に使用し、昆虫などでは「脚」の字を用います。

(注2) 分子遺伝学の進展に伴い、現在の分類は見直しが行なわれているところです。



サワガニ



ナガゴガネグモ



ヤスデの一種

### <協会の声> 惚れ直した上州の自然

第10期生 登坂 璋典

「ふるさととは?」と聞かれると「上州、上州は赤城山です」と答えていました。昔はこれで通じましたが最近は「上州ってどこですか?」はまだしも「群馬ってどこですか?」と聞かれる始末です。「赤城の山も今宵限り、、、」と県外へ移り住んで何10年、「遠いふるさと上州」になっていました。自分自身「ふるさとの自然」についてこんなに無知だったのかと驚きました。そんな折、紹介されたのが「ぐんま緑のインタープリター協会」でした。

早速申し込みましたが「途中入学はダメ、聴講ならよるしい」ということで一昨年の夏から参加しました。半年聴講し昨年4月からやっと正規受講生になりました。毎回の異なる講座の面白いことと素晴らしい自然に小学生のように好奇心一杯で出席しました。講座構成は樹木から土壌、水生生物、環境、昆虫、きのこ、哺乳類と爬虫類、林業、野鳥など多岐に渡り、なかでも救命救急法は良い経験でした。座学と屋外活動の組み合わせも楽しい研修でした。それも講師の方々と役員スタッフの方々のお陰と感謝しています。

今後必要なことは学んだことを実践で活かすことと心しています。ただし難点は覚えが悪く動作も緩慢になりつつあるので皆さんの「お邪魔虫」にならないようにと思っています。また勉強したことは「いのちを守る森づくり」の植樹活動にも生きています。

写真はきのこ研修のとき森で採取できた珍しいきのこ「ロクショウグサレキンモドキ茸」と「森の土壌調査」時のものです。



### <協会が実施する事業・研修会等>

実施日	内容	会場
平成24年6月24日(日)	前橋地域づくり交流フェスタ2012	前橋市総合福祉会館
7月14日(土)、28日(土)	みどりの子の森整備③ ④	みどりの子の森
平成24年7月21日(土)	前橋パイロット① 水鉄砲つくりとネイチャーゲーム	おおさる山乃家
平成24年7月29日(日)	森の体験① 木工体験	赤城木の家
平成24年8月4日(土)	元気21 キッズフェスタ(ネイチャークラフト)	元気プラザ21
平成24年8月11日(土)	みどりの子の森整備⑤	みどりの子の森
平成24年8月12日(日)	森の体験② 自然を観察しよう	伊香保森林公園
平成24年8月18日(土)	研修4 赤城山シカ食害対策アミ巻きと自然観察会	赤城山
平成24年8月25日(木)	前橋パイロット② 川の中の生き物	おおさる山乃家
平成24年8月25日(木)	室沢交流の森整備③	室沢交流の森
9月8日(土)、22日(土)	みどりの子の森整備⑥ ⑦	みどりの子の森
平成24年9月16日(日)	森の体験③ 赤城の自然を楽しもう指導者研修会	赤城山

<編集後記> 5/21. 金環日食、多くの人が空を眺めた。いつもと違う光景、日差しが陰り、地上の気温も約0.6度下がったと伝えられている。 6/6. 金星太陽面通過、天体へのロマンが広がる。自然界の不思議、そして自然への回帰を誘う。森で山で川で湖で、自然の魅力を味わおう。(M.O)